



【問合せ先】

第七管区海上保安本部
交通部企画課長 吉永 利博
TEL 093-321-2931(内線2610)

令和4年2月22日
第七管区海上保安本部

「航路標識協力団体」に3団体を指定

～灯台等の航路標識の管理の充実のために～

令和3年11月、改正航路標識法が施行され、航路標識協力団体制度が創設されましたが、同制度に基づき申請がなされた管内の4つの灯台に係る3団体について、本日付で、第七管区海上保安本部長が航路標識協力団体に指定しました。制度創設以来、今回の指定が初の指定になります。

なお、航路標識協力団体指定証は、各指定団体に対して申請のあった各灯台を管理する海上保安部長から交付されます。

1 航路標識協力団体制度の概要

昨年（令和3年）6月の航路標識法改正に伴い、航路標識協力団体制度が新設され、同年11月に施行されました。灯台の敷地の清掃、草刈や航路標識に関する知識の普及及び啓発等を自発的に行う民間団体等を「航路標識協力団体」に指定し、海上保安庁と協力して活動を行う団体として法律上明確に位置付けることにより、地域の実情に応じた航路標識管理体制の充実を図ります。

これらの団体が航路標識協力団体に指定されると、海上保安庁から必要な情報提供、助言等を行い、航路標識の維持管理等に係る取組みを促進します。

なお、航路標識協力団体が行う主な活動は次のとおりです。

- 灯台の錆落としや塗装、手すりの設置、清掃、草刈
- 灯台に関する歴史的資料の収集、保管
- 灯台の歴史調査、構造調査
- 灯台の一般公開、歴史的資料の展示、ワークショップ開催、ツアーガイド

2 今年度指定された団体

令和3年11月1日～12月24日の間に公募したところ、管内では4灯台に対する申請が3団体からありました。

東京で開催されました有識者による諮問委員会を経て、申請のあった灯台についてはすべて指定することとなりましたので、各指定団体に対して当該航路標識を管理する海上保安部長から航路標識協力団体指定証を交付します。

<七管区管内で指定された団体>

- 門司海上保安部管内
 - ・公益社団法人 燈光会（角島灯台）
 - 大分海上保安部管内
 - ・大分市関崎海星館指定管理者
大分エージェンシー株式会社（関崎灯台）
 - ・大分県佐伯市（水ノ子島灯台、鶴御崎灯台）
- ※全国で指定された団体 23団体（36灯台）



3 その他

今後も、毎年、航路標識協力団体の公募を行い、指定を行います。

<参考資料>

(1) 角島（つのしま）灯台

- ①所在地 山口県下関市
- ②初点灯 明治9年3月1日
- ③概要

角島灯台は、下関市の北西、響灘から日本海へ廻る交通の要衝に建つ、現役の灯台です。イギリス人技師R・H・ブラントンの指導による灯台の1つで、初点灯は明治9年3月1日です。角島の西端に建つ高さ30mで、竣工時には石造りで最も高い灯台でした。日本海側に最初に設置された洋式灯台として、近代の航路標識の整備の展開を知る上でとても重要です。また、灯台守が暮らした退息所（「旧官舎」）は資料館として公開されています。



(2) 水ノ子島（みずのこしま）灯台

- ①所在地 大分県佐伯市
- ②初点灯 明治37年3月20日
- ③概要

水ノ子島灯台は、豊後水道の大分県と愛媛県間の小島に建つ現役の灯台で、明治時代に4年間の年月をかけて、灯台建設史の中でも屈指の難工事により建設され、初点灯は明治37年3月20日です。灯塔は御影石で組み立てられており、基礎上39.25mの離島の灯台としては高さが日本一です。島の西側対岸にある佐伯市下梶寄には旧灯台守の事務所兼宿舎である退息所がありましたが、現在は水ノ子島海事資料館として当時の建物のまま保存・公開されています。



(3) 鶴御崎灯台（つるみさき）灯台

- ①所在地 大分県佐伯市
- ②初点灯 昭和56年3月25日
- ③概要

鶴御崎灯台は、豊後水道に突き出た鶴見半島の先端（九州最東端）の絶壁にたつ、比較的新しい灯台で、初点灯は昭和56年3月25日です。光達距離は23海里（約43km）で、これは対岸の四国まで届く距離になります。灯台下の海軍望楼跡は、展望台に改造され、観光施設となっています。



(4) 関崎灯台（せきさき）灯台

- ①所在地 大分県大分市
- ②初点灯 明治34年7月20日
- ③概要

関崎灯台は、豊後水道に面した佐賀関半島の突端に位置し、初点灯は明治34年7月20日です。昨年はちょうど初点から120周年となり、記念式典が行われました。明治期に建造された灯台のうち、鉄製の現役灯台としては希少な灯台となっています。近隣の大分市関崎海星館には旧灯台レンズなどが展示されており、観光スポットとして人気となっています。

